

事業の基礎情報

実施主体	岩手県久慈市
事業実施地域	岩手県久慈市
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉・教育・スポーツ・文化
共創パートナー	岩手県北自動車株式会社、久慈市地域包括支援センター、岩手県立久慈高等学校、岩手県立久慈東高等学校、株式会社ケー・シー・エス、株式会社みちのりホールディングス
運行形態	AIオンデマンド交通（道路運送法第21条）
運行主体	岩手県北自動車株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

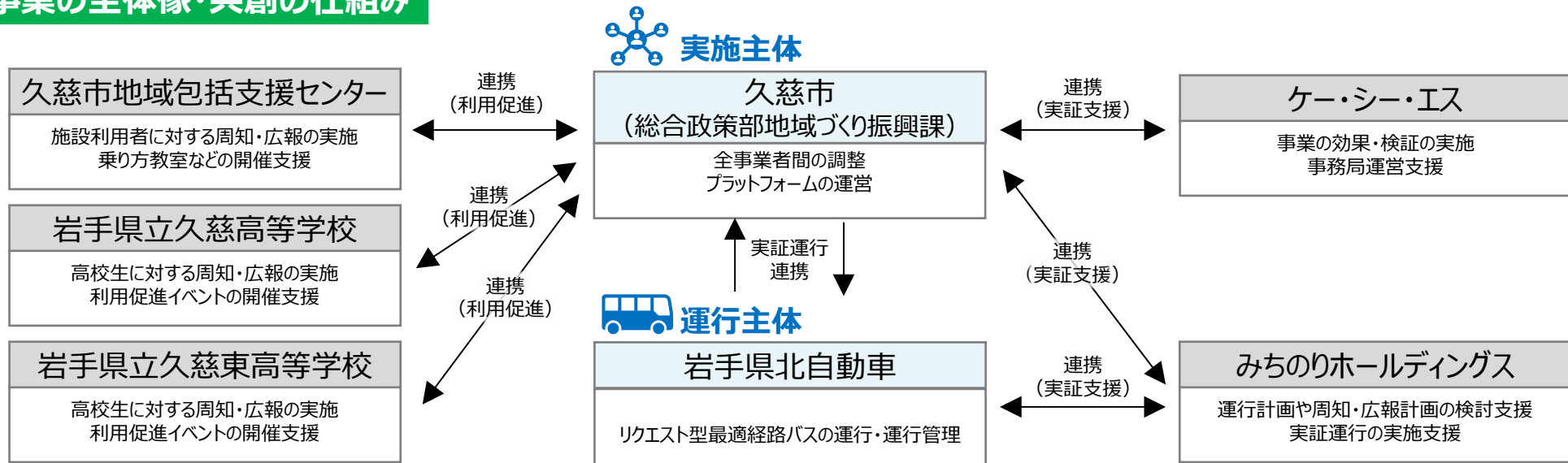
久慈市の市街地は、市内では人口集積が進んでおり、また移動の目的地となる施設が多く立地しているものの、バス路線の運行頻度が少ないことや、バス停まで遠い集落があるため、公共交通の利用機会が限定的であり、市街地内の回遊がしにくい状況にある。

そこで、市街地内に新たな公共交通サービスを導入し、福祉施設や高校との連携により、高齢者の外出促進や高校生の通学利便性の向上を図り、回遊性を高めて市街地の活性化に繋げる。また、実証事業の課題抽出や改善策の検討を踏まえ、本格運行へ繋げる。

（事業の概要）

実証事業として、市街地内でリクエスト型最適経路バス（AIオンデマンド交通）を運行する。また、福祉施設や高校と連携して、乗降場所の設置や待合環境の確保、周知・案内の充実、利用促進イベントの開催などを行う。それにより、実証期間だけでなく、本格運行への移行も見据えた、利用者の獲得、住民への利用方法の定着に努める。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

久慈市の市街地において、住民の目的地となる福祉・教育の各事業主体（久慈市地域包括支援センター、岩手県立久慈高等学校、岩手県立久慈東高等学校）と連携し、利用者増のための周知・広報施策の実施や、乗り方などの案内、利用促進イベントの共同開催など、利用者の目線に立ったきめ細かい利用促進活動を行うことで、共創パートナーの全ての主体において高い効果が得られる取組を展開する。

(実証事業により見込まれる効果)

最適経路バスで市街地内の移動がしやすくなることにより、車の免許を持っていない又は運転に不安を抱いている高齢者の外出機会の増加につながり、社会との繋がりの強化や健康維持・促進といった効果も期待できる。また、高校生の通学利便性の向上につながり、市街地へ外出する機会の増加も期待できる。これらの効果が定着することで、市街地での回遊性を高めて「市街地の歩行者交通量の増加」、市街地での購買・消費行動を誘発し「市街地の小売・飲食等の消費の拡大」も期待される。

取組の詳細

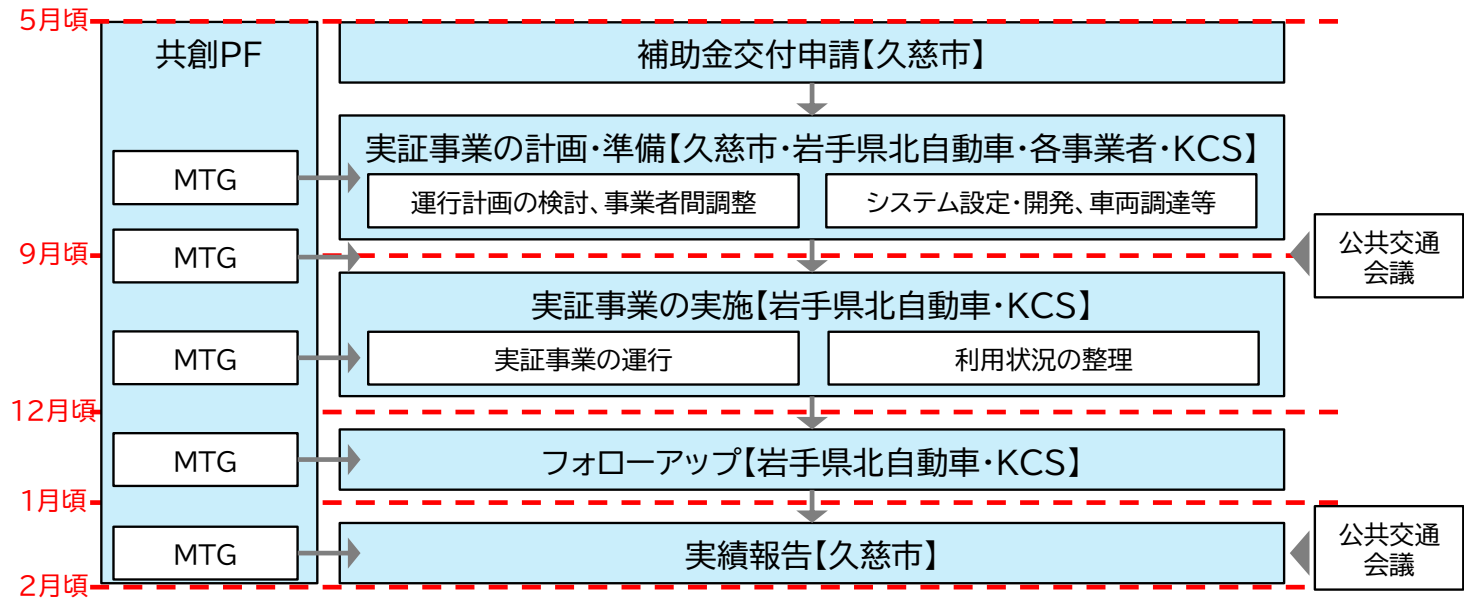
(事業実施手順・スケジュール)

令和6年5～8月：
実証事業の計画準備

令和6年9～11月：
実証事業の実施

令和6年12月～令和7年1月：
フォローアップ（効果検証等）

令和7年2月：
実績報告



(補助事業実施後の予定)

実証事業の実施により得られた効果・課題等を定量的・定性的に把握した上で、本格運行への移行のために必要な改善事項等について、関係者間で協議を行い、本格運行に向けた具体的な事業方策についての検討・整理を行う。

本格運行にあたっては、資金調達方法として国庫補助（地域内フィーダー系統補助）の活用や、岩手県の補助制度の活用なども視野に入れ、国・県との協議・調整を進める。

さらに、利用者の評価・ニーズ等を踏まえて、目的地となる施設等とのさらなる連携の可能性についても把握・整理を行い、新たな共創事業者（商業・観光分野や医療分野の事業主体等）との連携可能性を検討する。